



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月2日

上場会社名 株式会社ハーツユニテッドグループ 上場取引所 東
 コード番号 3676 URL <http://www.heartsunitedgroup.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 CEO (氏名)宮澤 栄一
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 CFO (氏名)風間 啓哉 (TEL)03(6406)0081
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月9日 配当支払開始予定日 平成27年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家及びアナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	7,392	19.2	795	10.0	799	11.2	268	△21.3
27年3月期第2四半期	6,199	—	723	—	719	—	341	—

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 265百万円(△26.3%) 27年3月期第2四半期 360百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	23.12	23.12
27年3月期第2四半期	28.59	28.59

(注) 当社は、平成25年10月1日に単独株式移転の方法により設立されたため、平成27年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	6,944	3,575	47.9
27年3月期	8,272	4,168	49.5

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 3,329百万円 27年3月期 4,092百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	8.00	—	9.00	17.00
28年3月期	—	9.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注) 平成28年3月期の中間配当につきましては、本日公表の「剰余金の配当(増配)に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,034	20.7	2,252	48.4	2,314	51.7	1,239	129.5	107.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、平成27年5月11日の取締役会決議に基づき、平成27年5月12日から自己株式の取得を行い、平成27年7月30日にその取得を終了しております。このため、平成28年3月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益は当該自己株式の取得の影響を考慮した額を記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

28年3月期2Q	11,945,400株	27年3月期	11,945,400株
28年3月期2Q	513,802株	27年3月期	2株
28年3月期2Q	11,619,098株	27年3月期2Q	11,944,296株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) の5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社は、平成27年11月5日に機関投資家及びアナリスト向けの四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する四半期決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	14
(企業結合等関係)	15
(重要な後発事象)	17
4. 補足情報	18
(1) 生産、受注及び販売の状況	18

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	平成27年3月期 第2四半期 (千円)	平成28年3月期 第2四半期 (千円)	前年同四半期 増減率 (%)
売上高	6,199,178	7,392,369	19.2
営業利益	723,044	795,041	10.0
経常利益	719,220	799,779	11.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	341,456	268,638	△21.3

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種金融政策等の効果により、企業収益並びに雇用・所得環境は緩やかに回復しつつあるものの、新興国の成長鈍化等による景気の下振れリスクにより、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻くデジタル関連市場においては、スマートフォンやタブレット端末の普及によるデバイスの複雑化並びにインターネット環境の飛躍的な進歩により、コンテンツ及びサービス等の変化に伴うビジネスモデルの多様化が急速に進んでおり、この流れを受け、当社グループの収益機会も増加するものと見込んでおります。

特に、当社グループの主力事業であるデバッグ事業と関連するソフトウェア・コンテンツ市場においては、高品質な製品開発に対する社会的ニーズが高まっているため、当社グループでは、デバッグ需要のさらなる取り込み及び付加価値の高いサービス提供に注力し、製品の品質向上を支えるパートナーとして顧客企業から高い信頼を獲得して参りました。

また、今後のデバッグ事業の成長を見据え、平成27年6月よりLab. (ラボ) のデバッグスペシャリストであるテスターを正社員として雇用する「業務正社員制度」を新たに導入するなど、中長期的に活躍できる人材の育成に注力することで、持続的な競争力の強化を図って参りました。

さらに、デバッグ事業の周辺領域であるコンテンツ制作やシステム開発、メディア運営等、事業の垣根を越えた多角的な業容拡大を進める中で、グループ事業の選択と集中を実施し、今後の成長に向けた強固なグループ経営基盤の構築に努めて参りました。

以上の結果、デバッグ事業の伸長がグループ全体の業績を牽引するとともに、メディア事業、クリエイティブ事業及びその他の事業も堅調に推移したことにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は、7,392,369千円(前年同四半期比19.2%増)、営業利益は795,041千円(前年同四半期比10.0%増)、経常利益は799,779千円(前年同四半期比11.2%増)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、クリエイティブセグメントにおいて発生した事業構造改善費用等を特別損失として計上した結果、268,638千円(前年同四半期比21.3%減)となりました。

セグメント別の状況は、以下のとおりであります。

	平成27年3月期 第2四半期 (千円)	平成28年3月期 第2四半期 (千円)	前年同四半期 増減率 (%)
売上高	6,199,178	7,392,369	19.2
デバッグ事業	4,530,036	5,409,077	19.4
メディア事業	235,580	256,598	8.9
クリエイティブ事業	810,830	983,648	21.3
その他	639,825	780,452	22.0
調整額	△17,095	△37,408	-
営業利益又は営業損失	723,044	795,041	10.0
デバッグ事業	1,116,972	1,164,480	4.3
メディア事業	117	18,490	-
クリエイティブ事業	△206,453	△192,969	-
その他	24,485	26,774	9.3
調整額	△212,076	△221,733	-

なお、各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しており、セグメント利益又は損失は営業利益ベースとなっております。

① デバッグ事業

当セグメントにおいては、顧客企業が求める不具合のない高品質な製品開発に貢献すべく、製品の品質保持及び品質向上に必要な不可欠な最終チェックであるデバッグ工程のアウトソーシングサービスを提供しております。

デバッグ事業におけるリレーション別の売上高は以下のとおりであります。

	平成27年3月期 第2四半期 (千円)	平成28年3月期 第2四半期 (千円)	前年同四半期 増減率 (%)
コンシューマゲームリレーション	1,690,455	1,648,571	△2.5
デジタルソリューションリレーション	1,696,839	2,663,400	57.0
アミューズメントリレーション	1,142,741	1,097,104	△4.0
デバッグ事業 合計	4,530,036	5,409,077	19.4

(i) コンシューマゲームリレーション

主に、コンシューマゲームソフト向けのデバッグサービスを提供している当該リレーションの関連市場であるコンシューマゲーム市場では、年末商戦期において「PlayStation®4」向けのタイトルが続々と発売予定であることに加え、来春においても、大型タイトルや人気シリーズの続編タイトルの投入が見込まれており、各ゲームメーカーにおけるタイトル開発が活発化していることから、今後の市場のさらなる盛り上がりが見込まれています。

このような状況のもと、当社グループでは引き続き、多様化する顧客ニーズを的確に捉えた提案型の営業活動を積極的に展開するとともに、既存顧客との関係強化に取り組むことで、大型タイトル案件の受注拡大に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちコンシューマゲームリレーションの売上高は1,648,571千円(前年同四半期比2.5%減)となりました。

(ii) デジタルソリューションリレーション

主に、モバイルコンテンツ向けのデバッグサービスを提供している当該リレーションの関連市場であるモバイルコンテンツ市場では、多種多様なスマートフォンアプリの充実化が進んでおり、特に成長著しいソーシャルゲーム市場では、大手コンシューマゲームメーカーの参入が本格化するなど、引き続き市場の成長が見込まれております。

このような状況のもと、ソーシャルゲームの開発市場においては、新規タイトルの開発に加え、既存タイトル向けの機能拡充やアップデートなどユーザーを拡大するための継続的な品質向上を通じた運営が重要視されるため、ゲームのリリース後においても引き続きデバッグニーズが発生する傾向にあり、デバッグ工程のアウトソーシングが拡大しております。

これらの事業環境を追い風に、当社グループでは引き続き、新規案件の獲得及び運営段階におけるデバッグニーズの獲得に向けた積極的な営業活動に注力することで、取引規模の拡大に努めて参りました。

また、発生した不具合をタイムリーに再現しその原因を解明する「リアルタイム検証サービス」等の新サービスの開発や、ユーザー視点を活かしたマーケティング支援サービス「DH-EYE」の提供を通じ、多様化する顧客ニーズに対応した付加価値の高いサービスの提供に注力して参りました。

これにより、ソーシャルゲーム市場における競争優位性のより一層の向上を実現し、ソーシャルゲームを対象としたデバッグをはじめとする各種サービスの売上高が大幅に伸長致しました。

さらに、業務システムやECサイト等を対象としたシステム検証分野においては、グループ連携を強化し大手インターネットバンキングサイトやホームネットワークシステムの検証案件を獲得するなど、着実にその実績を積むとともに、自動車業界向けデバッグサービスにおいては、平成27年1月のサービス提供開始以来、複数の案件を受注し順調なスタートを切るなど、新分野におけるサービス展開を早期に成長軌道に乗せるべく、各種施策に取り組んで参りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちデジタルソリューションリレーションの売上高は、前年を大きく上回る成長を実現し、2,663,400千円(前年同四半期比57.0%増)となりました。

(iii) アミューズメントリレーション

主に、パチンコ及びパチスロ向けのデバッグサービスを提供している当該リレーションの関連市場である遊技機業界では、昨年9月にパチスロ型式試験方法が変更されて以降、段階的に射幸性を抑制するための規制強化が実施されてい

ることを受け、顧客企業における開発スケジュールは依然として流動的な状態が続いております。

このような市場環境のもと、当社グループでは、引き続き顧客企業との関係強化に取り組むとともに、効率的なデバッグ体制を提案することで、受注拡大に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちアミューズメントリレーションの売上高は1,097,104千円(前年同四半期比4.0%減)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業の売上高は5,409,077千円(前年同四半期比19.4%増)、セグメント利益は1,164,480千円(前年同四半期比4.3%増)となりました。

② メディア事業

当セグメントにおいては、日本最大級の総合ゲーム情報サイト「4Gamer.net」の運営を通じ、サイト上でゲームメーカーをはじめとする顧客企業に広告サービスの提供を行い、プロモーション活動を支援しております。

近年、スマートフォンの普及やSNS・ゲームプレイ動画配信の流行等を背景に、顧客企業における広告手法が多様化していることから、当社グループでは、スマートフォン向けコンテンツを拡充するなど、これらの変化する顧客ニーズに対応したサービスの提供に注力して参りました。

また、ニュースメディアの枠を越えた新しいサービスの創造を促進し、その一環として、当社グループと相互補完的な技術及び事業領域を有している松竹ブロードキャスティング株式会社と業務提携を行い、両社事業のさらなる拡大及び両社の企業価値向上に向けた取り組みを積極的に推進して参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のメディア事業の売上高は256,598千円(前年同四半期比8.9%増)、セグメント利益は18,490千円となりました。

③ クリエイティブ事業

当セグメントにおいては、コンテンツ制作におけるクリエイティブ領域全般にわたる制作サポートサービスを提供しており、ゲーム開発やCG映像制作を行う「3DCGコンテンツ開発事業」、ゲーム開発のサポートを行う「開発アウトソーシング事業」、映像加工技術全般に関するサービスを提供している「映像制作事業」等の事業を展開しております。

当第2四半期連結累計期間は、前連結会計年度に子会社化した株式会社プレミアムエージェンシーを中心に、収益性の向上に向けた案件運営の改善及び費用削減等を進めるとともに、事業効率をより一層高めることを目的として、他のクリエイティブ事業を運営している子会社との会社統合等を視野に入れ、事業の選択と集中や拠点の集約等を実施致しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のクリエイティブ事業の売上高は983,648千円(前年同四半期比21.3%増)、セグメント損失は△192,969千円となりました。

④ その他

その他の事業では、コンテンツプログラムから基幹システムまで幅広い開発を行う「システム開発事業」、不具合情報のポータルサイトを運営する「Fuguai.com事業」及びクリエイターの育成支援を行う「デジタルハーツ・クリエイターズ・ネットワーク事業」等の事業を展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、主にシステム開発事業が堅調に推移した結果、その他の事業の売上高は780,452千円(前年同四半期比22.0%増)、セグメント利益は26,774千円(前年同四半期比9.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産の残高は4,746,951千円となり、前連結会計年度末における流動資産5,756,692千円に対し、1,009,741千円の減少(前期比17.5%減)となりました。

これは、主として現金及び預金が926,458千円減少したことによるものであります。

固定資産の残高は2,197,204千円となり、前連結会計年度末における固定資産2,516,254千円に対し、319,049千円の減少(前期比12.7%減)となりました。

これは、主として無形固定資産が258,947千円減少したことによるものであります。

(負債)

流動負債の残高は3,253,093千円となり、前連結会計年度末における流動負債3,823,561千円に対し、570,468千円の減少(前期比14.9%減)となりました。

これは、主として短期借入金が167,088千円減少したこと及び流動負債のその他が388,922千円減少したことによるものであります。

固定負債の残高は115,760千円となり、前連結会計年度末における固定負債280,508千円に対し、164,747千円の減少(前期比58.7%減)となりました。

これは、主として長期借入金が137,572千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産の残高は3,575,301千円となり、前連結会計年度末における純資産4,168,876千円に対し、593,575千円の減少(前期比14.2%減)となりました。

これは、主として関係会社株式の売却等により非支配株主持分が169,896千円増加したこと及び親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が268,638千円増加した一方で、期末配当の実施に伴い利益剰余金が107,508千円減少したことに加え、自己株式を取得したことにより純資産が999,788千円減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、2,132,328千円となり、前連結会計年度末における資金3,058,787千円に対し、926,458千円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は182,270千円(前年同四半期は85,309千円の収入)となりました。

これは、主として税金等調整前四半期純利益607,476千円及び売上債権の減少額157,614千円等の資金増加項目が、法人税等の支払額602,416千円等の資金減少項目を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は14,502千円(前年同四半期は362,742千円の支出)となりました。

これは、主として事業譲渡による収入132,623千円及び投資事業組合からの分配による収入19,150千円等の資金増加項目が、有形固定資産の取得による支出68,248千円及び無形固定資産の取得による支出71,656千円等の資金減少項目を上回ったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は1,119,817千円(前年同四半期は362,858千円の支出)となりました。

これは、主として短期借入金の返済による支出1,856,224千円及び自己株式の取得による支出999,788千円等の資金減少項目が短期借入れによる収入1,780,000千円等の資金増加項目を上回ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間において、クリエイティブセグメントで発生した事業構造改善費用等を特別損失として計上致しました。

これにより、平成27年5月11日に公表致しました通期の連結業績予想を修正致しました。なお、当該予想数値の修正に関する事項は、平成27年9月18日公表の「特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

(持分法適用範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、当社の持分法適用関連会社であった株式会社リインフォースは、同社の第三者割当増資により、当社の持分比率が低下したため、持分法の適用範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額
を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更致
しました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定に
よる取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法
に変更致します。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行
っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四
半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会
社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載
しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び
事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点
から将来にわたって適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益はそれぞれ4,150千円減少し、税金等調整前四半期純
利益は174,656千円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,058,787	2,132,328
受取手形及び売掛金	2,374,242	2,181,243
たな卸資産	12,249	27,594
その他	391,732	455,321
貸倒引当金	△80,318	△49,537
流動資産合計	5,756,692	4,746,951
固定資産		
有形固定資産	368,399	346,519
無形固定資産		
のれん	1,169,905	1,087,667
その他	335,755	159,047
無形固定資産合計	1,505,661	1,246,714
投資その他の資産		
その他	642,646	604,423
貸倒引当金	△453	△453
投資その他の資産合計	642,193	603,970
固定資産合計	2,516,254	2,197,204
資産合計	8,272,947	6,944,155
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1,603,217	1,436,129
未払費用	674,162	689,045
未払法人税等	414,790	373,248
賞与引当金	42,910	75,059
受注損失引当金	26,723	6,776
その他	1,061,757	672,834
流動負債合計	3,823,561	3,253,093
固定負債		
長期借入金	216,852	79,280
その他	63,656	36,480
固定負債合計	280,508	115,760
負債合計	4,104,070	3,368,854

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,686	300,686
資本剰余金	300,686	368,009
利益剰余金	3,435,537	3,614,471
自己株式	△4	△999,792
株主資本合計	4,036,906	3,283,374
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,897	5,575
為替換算調整勘定	42,742	40,124
その他の包括利益累計額合計	55,640	45,700
新株予約権	14,548	14,548
非支配株主持分	61,781	231,678
純資産合計	4,168,876	3,575,301
負債純資産合計	8,272,947	6,944,155

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	6,199,178	7,392,369
売上原価	4,306,955	5,354,436
売上総利益	1,892,222	2,037,932
販売費及び一般管理費	1,169,178	1,242,890
営業利益	723,044	795,041
営業外収益		
受取利息	728	473
受取配当金	—	3
投資事業組合運用益	6,919	16,700
助成金収入	—	3,947
その他	9,459	12,187
営業外収益合計	17,107	33,311
営業外費用		
支払利息	15,716	7,672
持分法による投資損失	3,547	233
為替差損	1,155	840
自己株式取得費用	—	9,997
その他	512	9,829
営業外費用合計	20,931	28,573
経常利益	719,220	799,779
特別利益		
持分変動利益	—	9,576
特別利益合計	—	9,576
特別損失		
固定資産除却損	—	28,993
事業構造改善費用	—	172,885
特別損失合計	—	201,879
税金等調整前四半期純利益	719,220	607,476
法人税、住民税及び事業税	352,374	289,169
法人税等調整額	15,986	41,488
法人税等合計	368,360	330,658
四半期純利益	350,859	276,818
非支配株主に帰属する四半期純利益	9,402	8,180
親会社株主に帰属する四半期純利益	341,456	268,638

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	350,859	276,818
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,576	△7,321
為替換算調整勘定	7,610	△3,997
その他の包括利益合計	9,186	△11,319
四半期包括利益	360,046	265,499
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	349,863	258,698
非支配株主に係る四半期包括利益	10,182	6,801

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	719,220	607,476
減価償却費	126,232	126,532
のれん償却額	81,115	82,238
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△8,418	△30,781
賞与引当金の増減額(△は減少)	5,729	32,440
受取利息及び受取配当金	△728	△476
支払利息	15,716	7,672
為替差損益(△は益)	△1,278	△595
持分法による投資損益(△は益)	3,547	233
投資事業組合運用損益(△は益)	△6,919	△16,700
持分変動損益(△は益)	—	△9,576
固定資産除却損	—	28,993
事業構造改善費用	—	172,885
売上債権の増減額(△は増加)	△39,210	157,614
たな卸資産の増減額(△は増加)	△13,218	△15,345
未払金の増減額(△は減少)	△206,493	△129,642
未払費用の増減額(△は減少)	10,045	15,087
未払消費税等の増減額(△は減少)	77,787	△272,209
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△37,107	△6,917
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△279,414	△57,794
その他	14,360	3,784
小計	460,964	694,920
利息及び配当金の受取額	726	546
利息の支払額	△15,720	△7,555
法人税等の支払額	△513,021	△602,416
法人税等の還付額	152,360	100,075
その他	—	△3,300
営業活動によるキャッシュ・フロー	85,309	182,270
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△44,150	△68,248
有形固定資産の売却による収入	47	—
無形固定資産の取得による支出	△63,972	△71,656
投資有価証券の取得による支出	△25,000	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△214,649	—
投資事業組合からの分配による収入	13,500	19,150
事業譲渡による収入	—	132,623
敷金及び保証金の差入による支出	△32,784	△3,907
敷金及び保証金の回収による収入	2,351	9,562
その他	1,916	△3,020
投資活動によるキャッシュ・フロー	△362,742	14,502

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,410,000	1,780,000
短期借入金の返済による支出	△1,645,700	△1,856,224
長期借入れによる収入	100,000	90,000
長期借入金の返済による支出	△120,914	△318,436
株式の発行による収入	230	—
自己株式の取得による支出	—	△999,788
配当金の支払額	△95,499	△107,071
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の 取得による支出	—	△135,986
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の 売却による収入	—	466,995
リース債務の返済による支出	△12,563	△32,954
新株予約権の発行による収入	14,548	—
その他	△12,960	△6,352
財務活動によるキャッシュ・フロー	△362,858	△1,119,817
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,513	△3,414
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△633,778	△926,458
現金及び現金同等物の期首残高	3,693,276	3,058,787
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,059,498	2,132,328

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

当社は、平成27年5月11日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、実施致しました。この取得により自己株式は、当第2四半期連結累計期間に999,788千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において999,792千円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ 事業	メディア 事業	クリエイテ ィブ事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,523,772	235,580	807,822	5,567,176	632,002	6,199,178	—	6,199,178
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,264	—	3,008	9,272	7,823	17,095	△17,095	—
計	4,530,036	235,580	810,830	5,576,448	639,825	6,216,273	△17,095	6,199,178
セグメント利益又は損失(△)	1,116,972	117	△206,453	910,635	24,485	935,121	△212,076	723,044

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業及びFuguai.com事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△212,076千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

② 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、株式取得及び第三者割当増資引受により株式会社プレミアムエージェンシーを子会社化したため、同社を連結の範囲に含めております。これにより前連結会計年度の末日に比べ、「クリエイティブ事業」のセグメント資産が1,617,690千円増加しております。

③ 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「クリエイティブ事業」において、第1四半期連結会計期間に株式会社プレミアムエージェンシーの株式取得及び第三者割当増資引受により同社を子会社化したことに伴い発生したのれんの額は、当第2四半期連結累計期間において709,575千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ 事業	メディア 事業	クリエイテ ィブ事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	5,398,309	256,198	983,104	6,637,612	754,756	7,392,369	—	7,392,369
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	10,767	400	544	11,712	25,696	37,408	△37,408	—
計	5,409,077	256,598	983,648	6,649,324	780,452	7,429,777	△37,408	7,392,369
セグメント 利益又は損 失(△)	1,164,480	18,490	△192,969	990,000	26,774	1,016,775	△221,733	795,041

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業及びFuguai.com事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△221,733千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

子会社株式の追加取得

当社は、平成27年6月30日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社プレミアムエージェンシーの株式の41.5%を追加取得して完全子会社化することを決議し、平成27年7月1日付けで同社の株式を取得しております。

(1) 取引の概要

① 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称 株式会社プレミアムエージェンシー
事業の内容 ゲーム開発及びCG映像制作等

② 企業結合日

平成27年7月1日

③ 企業結合の法的形式

非支配株主からの株式取得

④ 結合後企業の名称

変更ありません。

⑤ その他取引の概要に関する事項

追加取得した株式の議決権比率は41.5%であり、当該取引により株式会社プレミアムエージェンシーを当社の完全子会社と致しました。当該追加取得はクリエイティブ事業の事業基盤のさらなる強化のために行ったものであります。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

(3) 子会社株式の追加取得に関する事項

取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	135,986千円
取得原価		135,986千円

事業分離

当社の連結子会社である株式会社プレミアムエージェンシーは、平成27年6月30日開催の取締役会にて、同社の3Dソリューション事業を譲渡することを決議し、平成27年7月1日付けで実行しております。

(1) 事業分離の概要

① 分離先の企業の名称

株式会社ワイアール

② 分離した事業の内容

当社の連結子会社、株式会社プレミアムエージェンシーが営む3Dソリューション事業

③ 事業分離を行った主な理由

グループ経営資源の選択と集中及び企業経営の効率化を目的に株式会社プレミアムエージェンシーが取り組んでいる3Dソリューション事業を譲渡し、これまで同社が得意としてきたコンテンツ制作技術を活かしたゲーム開発及び映像制作に係る事業に経営資源を集中するためであります。

④ 事業分離日

平成27年7月1日

⑤ 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする事業譲渡

(2) 実施した会計処理の概要

① 移転損益の金額

移転損益は発生していません。

② 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	37,958千円
固定資産	98,644千円
資産合計	<u>136,602千円</u>
流動負債	<u>3,979千円</u>
負債合計	<u>3,979千円</u>

③ 会計処理

移転した3Dソリューション事業に関する投資は清算されたものとみて、移転したことにより受け取った対価となる財産の時価と、移転した事業に係る株主資本相当額との差額を移転損益として認識する。

(3) 分離した事業が含まれていた報告セグメント

クリエイティブ事業

(4) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高	6,564千円
営業損失	△35,801千円

(重要な後発事象)

共通支配下の取引等

(連結子会社間の吸収合併)

当社は、平成27年10月23日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社プレミアムエージェンシー、株式会社G&D、株式会社デジタルハーツ・ビジュアルの3社間による合併及び存続会社の商号変更を行うことを決議致しました。

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

① 結合企業

名称	株式会社プレミアムエージェンシー
事業の内容	ゲーム開発及びCG映像制作等

② 被結合企業

名称	株式会社G&D
事業の内容	ゲーム開発のサポートを行う開発支援サービス等
名称	株式会社デジタルハーツ・ビジュアル
事業の内容	映像加工技術全般に関するサービス

(2) 企業結合日

平成28年1月1日(予定)

(3) 企業結合の法的形式

株式会社プレミアムエージェンシーを存続会社、株式会社G&D及び株式会社デジタルハーツ・ビジュアルを消滅会社とする吸収合併を予定しております。

(4) 結合後企業の名称

株式会社フレイムハーツ(当社の連結子会社)

株式会社プレミアムエージェンシーを吸収合併存続会社とし、株式会社フレイムハーツへ商号変更致します。

(5) その他取引の概要に関する事項

類似事業を営む連結子会社間の合併により、効率的な組織体制の構築を図るものであります。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

事業の特性上、該当事項はありません。

② 受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
クリエイティブ事業	1,024,051	216.4	312,016	137.9

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社グループの「デバッグ事業」及び「メディア事業」は、受注から役務提供までの所要日数が短く、期中の受注高と販売実績とがほぼ対応するため、記載を省略しています。

③ 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

区分		当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
		金額(千円)	前年同四半期比(%)
デバッグ 事業	コンシューマゲームリレーション	1,644,276	97.3
	デジタルソリューションリレーション	2,659,495	156.9
	アミューズメントリレーション	1,094,537	96.1
	小 計	5,398,309	119.3
メディア事業		256,198	108.8
クリエイティブ事業		983,104	121.7
その他		754,756	119.4
合 計		7,392,369	119.2

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 当第2四半期連結累計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、当該割合が100分の10以上である相手先がないため記載を省略しております。